

コンクリートと再生碎石の現状と未来

行き場のない再生碎石

建設業界、廃棄物処理業界、解体業界を悩ませている問題に、再生碎石の問題がある。昔から、大型解体の多い大都市圏では再生碎石の行き場はなく、大型解体の少ない地方に行けば足りない状況は続いており、近年はそれが強まっている。こういった流れは当面は続くと考えられている。現在、首都圏のある解体業者によると、「特に大きな工事になると、まず再生碎石の行き先を見つけないと工事をはじめられない」という。いくら解体しても処理・リサイクルする先がなければ工事を進めることができない。そのため、工事全体が遅れることもあるという。

黒姫グループ

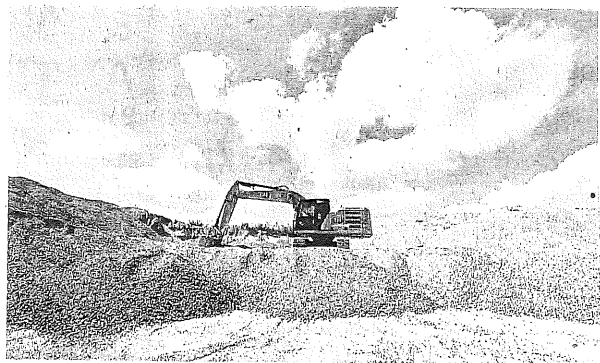
脱炭素で高付加価値化

再生碎石にCO₂吸収量を揭示

関東圏では、首都圏。そして、ここに乘の再生碎石が北関東に運ばれるケースが多

れらは最終的には建築石のCO₂吸収能力に着目して、付加価値向上を進めている。黒姫グループ4社、ここには水酸化力である黒姫(本社・東ルシウムが含まれて京・足立、唐澤明彦社、03・3896 CO₂と結合するため

こういった中、関東圏でも最大級の規模で再生碎石の製造を行っている黒姫グループ長、03・3896 CO₂と結合するため(東京・足立、唐澤明彦社、03・3896 CO₂と結合するため)では、再生碎石・京・足立、広域環境開程度CO₂を吸収・固



関東圏で最大規模の再生碎石を扱う

発(千葉定できるかについて定県・袖ヶ期的に評価しており、浦市、埼その実測値をもとに再玉総業生碎石「CO₂-No micom」として販売している。これは業界で唯一、固定化できるCO₂を実験的に定量化した材料となる。同社では、この性質を生かし、再生碎石のCO₂量を試験分析して顧客に無償提供し、現在エコマーク認定も取得している。

の応用なども検討していくという。

再生碎石にはもともとCO₂を吸収する性質が知られており、同社ではその吸収能力を最大化させる技術を大学と共同で研究開発。

通常再生碎石1tにつき、8kgの吸収量であるのに対し同社では1tに20kg程度のCO₂を吸収できるとい